

『Drunkードランター』

作・藤崎麻里

【登場人物】

上野
馬場
目黒
神田
大崎
大塚麻衣
大塚邦夫
渋谷美紀
田端

六月の下旬、火曜日。
午後十一時頃。

駅からほど近い、飲み屋が連なる裏通り。
そろそろ終電を気にし始める人や、一層の盛り上がりを見せて
酔っ払いが笑い声を上げているかと思われる時間帯。
その一角にバー『パーフェクトデイ』はある。

その店内。
下手に出入り用のドア、前方にはテーブル席といくつかのイス。
正面奥にはカウンター、壁に沿ったカタチでボトル棚がある。
上手にはドア付きトイレが設置されている。

【第一場】

バーの中の喧騒。
カウンターの中にはマスターの大崎がいる。
隅っこのスツールでは目黒が眠りこけていて、大きな身体を器
用に畳み、カウンターに突っ伏している。
テーブル席には馬場と神田と田端。
すでにたくさん空の瓶ビールやグラス。
それぞれ、でたらめなペースで酒を口に運ぶ。
かなり出来上がっているようで、大きな笑い声を上げている。
バーの外、出入り口付近でだらしなく座り込んでいるのは大塚。
手にしている日本酒のボトルを時々口に運んでいる。
もちろん、すっかりできあがっている。
テーブル席の馬場、ひととき大きな声で笑う。
泥酔している三人、ろれつ怪しく――。

馬場 タバちゃん、よくないっ、ウソはよくないっ！
田端 いやいやいや、うそじゃないっから、あるのーっ！
馬場 ないよ、ないっ！ ないっっ！
田端 ある！ マジでモグラ！ ほんつとにモグラ！
馬場 モグラはない！

田端 モグラ！ 正真正銘のモグラ！ まさにモグラ！ だはーっ（モグラのまね）

神田 や、や、（もはや酔いで言葉にならず）モグラモグラ！

田端 だはーっ！

馬場 なに、それ？

田端 モーグラじゃああん！

馬場 どうよ、カンちゃん。

神田 いやあ〜：

馬場 ね、ね、だよね、そういう反応になるよね？

田端 あー、信じてないっ！ カンちゃん信じてない。

神田 あ、いや、どうかな…見たんなら…モグラなんすよ。

馬場 いや、見ないでしょー！。

神田 見ないですね…

馬場 どっちよ！（と、意味なくゲラゲラ笑う）

田端 いや、マジ。俺もビビったから。なにかなーって思ったんだよね、最

初は。ほら、あれって、アレのときに出てくるじゃない。

馬場 アレ？

田端 アレ。

神田 アレ…

アレの意味はわかるが、酔っ払っているので出てこない。

田端 でね——

馬場 待って待って。なんだっけ？

田端 や、や、や、でさ——

馬場 出てこないと気持ち悪い。気持ち悪いじゃん。

田端 いいって、もう。

馬場 待って。待って！ 思い出す。いまっ、思い出す！

田端 だはーっ！（と、馬場に抱きつく）ムリムリ〜

神田はニコニコと話を聞きながら、グラスに酒を注いでいる。
ピッチ早くどんどん飲み干していく。

馬場 だー、ちょっと待ってよ、ここまで出かかって…

田端 無理だって。俺ら——酔っ払いだから！ だはーっ！（モグラのまね）

馬場 (まねして) だほーっ！
田端 つか モグラか!? ワニじゃね!?
馬場 あー、自分でやっといてく、だほーっ！
田端・馬場 ぎやははははっ！

話に参加しているのかしていないのか、酒にしかほとんど意識の向いていない神田。
と、自分のグラスが空なことに気づき、

神田 (グラス掲げ不服そうに) あ、ああ? あああ?

神田、立ち上がってカウンターに向かう。
かなりの千鳥足で酔いが回っていることがわかる。
テーブル席ではツボッている馬場と田端。
出入口付近の大塚、立ち上がってドアの前でゆらゆらしている。

大塚 (節をつけながらブツブツと) ダメって言ったら、ダメなのよ。入っちゃダメよ。絶対ダメよ……
神田 マスター……(グラスをかざし) と、と……

大きくよろけて目黒に覆いかぶさる。

目黒 ……(目を覚めますが事態をつかめず)
神田 あ、あ、すみません……(頭を下げるとさらによろける)
目黒 あ、いや……
大塚 いいよ、同じのね。
神田 すんません……
目黒 マスター、俺も。
大塚 はいよ。ちょっと待っててね。
目黒 いいや、ボトルちょうだい。
大塚 (ボトルを取り出し前に置く)

神田、ぐらぐらしながらテーブル席へと戻る。
急激に酔いが回ったのか、人が変わったようなベロベロ状態に。

神田 きんっだんっ、しょうじょう！
馬場 お、なんだ、カンちゃん。
神田 わかりました！ わかりましたもっ！ いまっ！ 今っ！ 言っ
たやつ！ ここまで出かかってるやつ！ 禁断症状っ！
馬場 あー、あーあーっ！！（それだ！）
田端 よっ！ 酔っ払い！
神田 禁断症状！ モグラ！？ 出てくるんすか？ モグラっ！？
田端 そうそう！（マスターに）おかわりね！
大崎 はいよー。

目黒、三人の話を気にしながら飲んでいる。

神田 可愛いもんじゃないですか、モグラなら。
馬場 かわいいっ、確かにかわいい！ 出てきたら叩いちやえばいい！
田端 だはーっ！
馬場 このやろっ、このやろっ（モグラ叩きのごとく田端の頭を叩く）
田端 いててっ。
馬場 このやろっ、このやろっ！！
田端 いててっ。いてっ。
馬場 だはーっ！
田端 このやろ！ オラオラっ！（ピコピコと、頭を叩く）

大崎、神田と田端のお代わりを運んでくる。

大崎 はいー、お待たせー。

神田、すぐにそれをグツと飲み干す。

神田 だはーっ！（やってみるが、二人より情けない感じ）
二人 このやろっ、このやろ！！

二人にポカポカ叩かれて、嬉しそうな神田。

目黒、グラスを手にテーブル席までやってくる。

目黒 ども。

田端 おやつ、カッコイイお兄さん！
目黒 や、どもども。

田端 お兄さんもほら（こっちで話そう）
目黒 （加わって）いまの話、幻覚のことですよ？ モグラって。や、実は
ちよつと…あ、マスター、ボトルを。コップも。

大崎 （ボトルとコップを運んで）人数分がいいよね？
目黒 はい。（二人に注ぎながら）どうぞ。

田端 うそ？ 奢り？

目黒 お近づきのしるしに。あ、目黒です。

田端 あざーっす！

馬場 どうも！

神田 （頭を下げながら）

田端 マスター、これはツケに入れないでね。

大崎 はいはい、わかってますよー。

田端 さすが、わかってる！ じゃあ（グラスを掲げ）

四人 乾杯！

それぞれグラスの酒を飲む。

田端 Oh! God! うまつ! 何コレ!?

馬場 （ボトル見て）やっぱ違うわー。いい酒は!

神田 サイコーっす! わんだふおう!

目黒 さっきの話ですけど。

神田 禁断症状っすね!

目黒 いや、その先。幻覚の話です。この間、僕、初めてそういうもの見た
んですよね。なんかアルコール摂取する日が続いちやっただんです。結
構長く…で、これではいけないと。仕事にも支障出ちやっただんで。
二日間やめました。別に断つとかそんなつもりじゃなく、軽くアルコ
ール抜く感じで。週末だけやめるぞ、ってつもりで。久々にジムでも
行こうかなって。そしたら…

神田 （ふざけた真顔で）小人ですか？

目黒 ……え？

神田 小人がたくさん？

目黒 小人？

神田 こんな感じで行進してきた？

目黒 パレードですか？ デイズニーの。
神田 幻覚の話。
馬場 コウモリの人もいますよ。
目黒 え？
馬場 コウモリがたくさん部屋の天井にバタバタ飛んでるとか。あ、この人はモグラだけど。
田端 だはーっ！
馬場 でたな、このやろっ！（叩く）
目黒 僕は虫…これくらいなの。ここにとまっていた、あれって幻覚だったか夢だったか…
馬場 なんだ虫かあ…
田端 ありきたりだな…
目黒 え？ ありきたり？ え、ダメ…？
神田 …ダメじゃないですよ。ダメじゃないです。俺も虫ですから…
目黒 ……
馬場 何を隠そう、実は俺も虫。
目黒 ……
神田 いいんです！ 虫だって、あの襲ってくる恐怖は一緒ですから！
馬場 おう！

目黒、なんだか吹っ切れたような？ 弾けた気持ちで一気に酒を煽る。
神田と馬場は共感するようにガシガシとハグをしている。
大塚はドアの前でゆらゆらしていたが、

大塚 ダメダメ、ダメよく…いやいや、もうダメ、限界ヨ。入っちゃおう
店に入ってくる大塚。

大崎 いらっしや…（見て）はい、お帰りなさい。
大塚 お帰りだなんて、いや、もうー、マスターったら！

と、喜びながらオブジェに話しかけている。

大崎 僕はこっちですけどね。

大塚 はい、ただいまっ。いいわ。こうなったら一緒に踊りましょ♪

オブジェの肩や腰に手をかけ、踊り出す大塚。

神田 あー！（大塚に）あーっ！ あー！ おおつかあさんっ！ 大塚さんっ！ 待ってた。俺はあ、ずっと待ってた！ 遅い！ 来るのおそいつ！

大塚 あはーんっ、遅れちゃってごめんなさいっつ。

神田 あれすか！？ また店の前で迷ってたんすか？

大塚 ダメなのよ、入っちゃ。ダメなの。入って来ちゃったの。

馬場 いたからね、つかっちゃん、いたからねっ！

田端 いたいた、飲んでた。俺たちとずっと飲んでた！

大塚 ふふふっ、ふふ（と、店の中をふらふら）

テーブル席では早くもボトルが空になる。

神田 （空のグラスを目の前に掲げ）アレ？ あれれ？（何故ない）

目黒 マスター！（ボトルを掲げて）

大崎 はいよ。

馬場 いいね、大盤振る舞いね、目黒っち。エリートさんね、このこのっ。

目黒 いやいやいや、そんなんじゃないです。で、さっきの話。なんかね、初めはここに（腕に）一匹止まってたんですよ。ちっちゃい、こんなやつ。

馬場 虫ね？

大塚 （も、加わってわかっているのかいないのかしたり顔で）虫っ、そう、蟻に羽根が生えるようなやつ、羽虫。で、払うでしょ？ こ

うやって。そしたらまた止まるんですよ。今度はこつちの手。（の甲）こうパッと（払う）そしたら、今度は顔にきて、ブンブン…あー、なんだよって、気がついてたらすっげえ大群。そいつらが身体中まとわりついてきて。

神田・馬場 わかる

目黒 確かにいたんですよ。虫。

神田・馬場 うんうん。

目黒 わかります？ わかっちゃうんだあ？ わかります？ いやあ、もう嬉しいなあ。（どンドン調子に乗ってきて）こんな話わかってくれませ

んから、誰も。ていうか、フツーできないです。幻覚とか、フツーじゃないから。

田端　　そ、俺たち、フツーじゃないっ！

馬場　　じゃないっ！

田端　　けどっ、俺たちはフツーじゃね？

馬場　　じゃね？

神田　　じゃね？

三人　　ぎやははははっ！

一斉に笑うそれぞれ。

と、不意に神田がぶっ倒れる。

田端　　あー、あー、

大塚　　あーんっ、カンちゃん！

目黒　　あれ？

馬場　　あー、だいじょうぶだからっ、いつものことだからっ、みんな一緒！

田端　　マスター

大崎　　はいはい。そこより、あっちがいいなあー。

大崎、倒れた神田をズルズルと隅っこに連れて行く。

それにじゃれ合うようにみんなで、

田端　　あー、てっだうー

馬場　　つか、起こせ。

田端　　おい、起きろいつ、

馬場　　よっ、起きろ。

田端　　起きろー。

大崎　　いいから、邪魔しないで。

田端　　ほら、目黒っちも。

目黒　　起きてください。

田端　　なんじゃダメ。

目黒　　こちよこちよこちよ(と、くすぐる)

田端・馬場　　ぎやはははっ！

目黒　　(一緒に) ははははっ！

もつれ合っているうちにみんな倒れ込んだり、床で飲んだりと。一人、神田を引きずったり担いだりしている大崎。

大崎 (観客に) 時々、思うんですよ。電灯に集まってくる蛾みたいだって。常連さんですよ。ここにいろほとんどが。毎晩、来る人もいれば、そうじゃない人もいる。来ない日は、おそらく部屋でワンカップでもチビチビ飲んでいる。寂しくなってくると、ドアを開ける。いいんですよ。それで。なんとと言っても店の名前が「パーフェクトデイ」ですから。

神田を寝かせると、ブランケットをかける大崎。

大崎 あ、申し遅れました。大崎です。別にね、幻覚見ちゃうぐらいのお客さんばかりじゃないんですよ。フツーにお酒を楽しむ人も来ます。けど、この時間帯多いですね。相当の酔っぱらい。酒飲みはかなりの確率でアル中です。あ、この言い方は正しくないですね。アルコール依存性です。欲求を自分でコントロールできないのが依存症。今日はやめておこうかな、いや、あと一杯だけ飲んじやおうか——あなたもすでに片足突っ込んでます。

田端 うっ (口元を抑えて)

トイレに駆け込んでいく田端。

田端の声 うえーっ、おえーっ…

馬場 飲も飲も！

目黒 はいはいはいはいっ

何度目かわからない乾杯。

意味なく肩を抱き合って飲み始める二人。

大塚は相変わらずオブジェを相手に踊っている。

大崎 おそらくシラフになった時には記憶がないでしょう。冷静になると自責の念に駆られる。もう、絶対にこんな飲み方はしない。二度と酒は飲まない。

ふらつきながら戻ってくる田端。

馬場 よっ、タバちゃんっ！

目黒 よっ、

田端 (また酒をクーッと開ける)

馬場 (も、クーッと)

目黒 (も、クーッと)

床なのか座っているのか、ぐちゃぐちゃな感じ。

と、不意にコテンと眠ってしまう目黒。

大崎

彼は目覚めて禁断症状が出たら、また羽虫に襲われる幻覚を見るのか
もしれません。長い長い闘いの始まりです。終わりのない闘い……そ
れは自分自身だけじゃなく、

【第二場】

大崎 周りの人間をも巻き込むいくさのような闘いでもありまして……

テーブル席でうなだれている神田。

カウンターには渋谷がいる。

大崎は棚のボトルを一本一本磨いている。

開店前の準備の時間――。

大崎 翌日のことです。

わりと長い間。

渋谷の前にはお冷が出ている。

渋谷 (ため息) ……

神田 ……

渋谷 教えてください。来たか来ないかでもいいんです。

渋谷、身を乗り出し、

渋谷 …あの、本当に来てませんか？

大崎 さあねえ。

渋谷 常連なんですから、来ましたよね？

大崎 僕のポリシーで教えるのはちよつと。

渋谷 ポリシー？

大崎 来るもの拒まず、去るもの追わず。

渋谷 ぜんぜん関係ないじゃないですか！

神田 (見ている) ……

渋谷 すみません…開店前なのに。ほとんど探したんです。

大崎 ええ。

渋谷 ダイナムでしょ、グラントでしょ、駅前ホームランでしょ。

大崎 はい。

渋谷 隣の駅にも足を伸ばしたんです。マルハンでしょ、ひまわりでしょ、

(スマホを取り出し) 他にもあったかな…あ、楽園は行ってない。え、

パラダイスっていうのもあるんだ！

神田 (急に割り込み) 楽園とパラダイスは同じです。

渋谷 え？

神田 同じです。楽園とパラダイス。同じ店。

渋谷 あ、ああ…

神田 呼び方で印象が違うんで…パラダイス行くぞ、って言えば出るような

気がするし、楽園行くぞって言えば勝てる気がするし。

渋谷 はあ…

神田 同じです。同じ…どっちでも負けます…

渋谷 (頷くがあまり関わり合いたくない)……

間。

渋谷 (大崎に) 一時はね、パチンコ屋でも働いてたんです。真面目にやっ

たんですよ？ 根は真面目ですから。ジャカジャカうるさいなか、狭

い通路行ったりきたり、理不尽なお客もいますよね。出ないぞ！ つ

て台、ガンガン叩いたり。そういう人、大抵は酔ってて。その時言っ

てました。酔っ払いはサイテーだなあ、俺もあんなだったのかなあ…

間。

渋谷 荒療治だったのか、あんなにパチンコやってたのバカみたいだって。絶対勝てるワケなのに、なにやってたんだろって。けど、酔って出勤するのが続いてクビですよ。は？ ギャンブルはやめてもお酒はやめられなかった。ほんの三ヶ月です。一切飲まなかったのが堰切ったみたぐ飲みだして。あのバカ、言うんです。ごめんねえ、もう飲まない。今日で最後だから…嘘つけ！ 何回言ってきたんだ。何回繰り返してきたんだ。クズですね、クズ。ああいうクズはまともな暮らしなんか出来ないんですよ。何やっても長続きしない。楽に稼げるんじゃないかってギャンブルに走る。どうせ負ける、借金に走る。酒に逃げる。甘えるんじゃないよ！ 誰だって生きてくのは大変なんだよ！

と、なぜかどんどんうな垂れていく神田。

渋谷 ダダ漏れました、魂の声。なんかすみません。

大崎 言っちゃってください。どんどん。(ひとり言のように)どんどん聞かせた方がいい。お冷のおかわりは？

渋谷 いえ、もう…

長い間。

渋谷 (ため息) どうしたのかなあ…のたれ死んでるのかなあ…

大崎 それは否定できませんねえ。わんさか見てきましたからね。色んな人間の野垂れ死ぬ様を。

渋谷 え…(不安になる)大丈夫ですかね…。酔って道路で寝ちやうとか、それで車に轢かれるとか！ 駅のホームでよろけて、たまたまホームドアなくて落っこちちやうとか！…どうしよう…なんか、どうしよう…

神田 大丈夫です。それは大丈夫です。絶対にあり得ません！

渋谷 なんて言い切れるんですか！

神田 なんて…(だってトイレに…)

渋谷 ほんともう…たままない、こういうの…

と、その時、外から上野がやってくる。
ふらつく身体でドアをなかなか開けられず、切羽詰まった様子。
何事かと、見る各々。
ようやく中に入り、迷わずカウンターへ。

上野 (息荒く) 酒。

大崎 お客さん、まだなんですよ。

上野 いつ？

大崎 はい？

上野 いつ開く。

大崎 …あと三十分くらいです。

上野 待てない。

カウンターに置いた手、大きく震えている。

大崎 (見て)

上野 (急いで手を引っ込める)

大崎 (ジッと見ている)

上野 (幻聴が聴こえたのか) ……

ハツとして店の中を見回す上野。

不審げに見ている渋谷、何となく席を離れ、テーブル席に移る。

上野 金ならちゃんと払う。

大崎 ……

上野 (切実に) …頼みます。頼む…お願いだから。頼む…

大崎 ……何にします？

上野 ウオッカ。強いやつ。

大崎 (選んで注ぎ出す) はい。

奪うようにグラスを取る上野。

しかし、手が震えてうまく口に運べない。

全員 (見ている)

上野、もう片方の手で震えを抑え、一気に飲む。

上野 (身体に染み込むアルコールを感じ、安堵している) ……もう一杯。
大崎 かしこまりました。

準備し、またグラスを出す大崎。

大崎 ……
上野 (今度は一気にグラスを煽る)

恍惚の表情をし、さらにグラスを大崎に差し出す。

大崎 ピッチ早くないですか？

上野 (それには答えず) たまんねえな…やっぱ…

大崎 ……

上野 お願いしますよ。

大崎 (お代わりを注ぐ)

上野 味わいますよ。ちゃんとね…ちゃんと…

今度はゆっくりと酒を飲みだす上野。

それをジッと見ていた渋谷、矛先は神田に向かい、

渋谷 よっぽど好きなんですネ。お酒。

神田 え？ 俺？

渋谷 泊まったんですよね？ ここに。二日酔いで。

神田 あ、はい。や、覚えてないんですけど、はい。そうです。あ、でも、好き……では、ないです。

渋谷 は？

神田 お酒。たぶん、好きじゃないです。

渋谷 じゃあ、なんで飲むの？

神田 なんで…

渋谷 なんで飲むんですか？ ハッキリしてください。私、酔っ払い見るとイライラするんです。分からないんです。お酒飲む人の気持ち。私、飲まないいで。飲めないいで。

神田 なんか…すみません…

渋谷 八つ当たりしてます。こっちこそ、すみません。

上野、再び、大崎にグラスを差し出す。

上野 お代わり。

大崎 …かしこまりました。

渋谷、立ち上がる。

渋谷 (大崎に) 私が来たこと、田端には言わないでください。

大崎 かしこまりました。

神田 こんなに心配してるの？

渋谷 してませんよ。

神田 羨ましいです。彼女にこんなに心配されて。探しにまで来られて。

渋谷 だから…してないって言ってるじゃないですか。これは…ただの意地です。

神田 ……

渋谷 それだけです。

と、突然、上野がバカにしたように笑う。

渋谷 え……

上野 教えてあげようか？ お酒飲むヒトの気持ち。

渋谷 なんですか、いきなり。

上野 わかってるけど、やめられないんですよ。でも、止まらないんですよ。こんな関係断ち切っちゃった方がいいって。自分でもわかってるんですよ。

渋谷 失礼じゃないですか、あなた。

上野 捨てちゃえる？ カレシ。

渋谷 (言葉に詰まる)

上野 無理でしょ？ 同じだから。俺もやめれないの。やめられないんですよ。

渋谷 どいてください。

上野 説明できたら、とつくにやめてるっつーの。はははっ。

渋谷 ほんと、酔っぱらい、嫌い！

渋谷、怒ったように出て行く。
と、少しして、トイレのドアが開く。
田端が便器に腰かけていて、様子を窺うようにそろーっと出てくる。

田端 あー(身体が)イタ、イテテ…あーイテ(伸びをして)ダメ男でーす!

間。

田端 あれ? 受けなかった? クズ男でーす!

神田 ……

田端 (大崎に) マスター、すみません。

神田 ……田端さん。帰ってあげたらどうですか?

田端 帰るよ? さすがに二泊もここじゃさ。あいつ夜勤だから、今日。で、

明けて帰ってきて、俺見てホッとして仲直り。チャンチャン。

神田 彼女さんの気持ちは…どうなんですかね。

田端 あれっ、言うねー。珍しいね、カンちゃん。もしかしてタイプ?

神田 ……

(唐突に) 田端。

上野 上野さんっ!?

田端 来たよ。「パーフェクトデイ」

上野 覚えててくれたんだ?

田端 いま、なんで俺がいると思う?

上野 ?

田端 抜け出してきたのよ。病棟。脱走、脱走。

上野 えっ、

神田 脱走って…?

上野 や、真面目にさ、受けてたのよ。更生プログラム。やっと外出許可出て。けど、その足でコンビニ行つて。(クーッと飲む)

田端 スリップはや。

上野 コンビニの駐車場でぶっ倒れてな。記憶なくて目が覚めたら独房。酒

抜かれて…や…苦しかったわ。で、隙見て…来たわけ。

田端 もう、来ちゃダメじゃないすか、上野さあん!

上野 だっ! 来ちゃダメだな!(笑う)…や、無理だったな…やっぱ俺、

無理だったわ…

大崎 ……

田端 じゃ、お帰りなさいってことで、乾杯しましょう。ほら、

カンちゃんも。

神田 (口抑え) いや、俺は…

田端 迎え酒、迎え酒。(と、マスターからグラスをもらい) じゃ、

二人 カンパーイ!

神田 (一応合わせる) ……

上野 ……

酒を飲むそれぞれ。

大崎、出入り口に向かい看板を出す。

大崎 アルコール病棟を出てすぐに飲んでしまうと言うことは、よくあることです。入院することで、強制的に飲まない環境にさせられているだけ。病院を出てしまえば、あとは自分の意志のみになります。飲むか、飲まないか…：飲まない。これはアルコール依存症の人間からすれば、地獄の戦いなのです。だって自分の意志だけじゃなく、脳がアルコールを欲して、飲め、飲め、命令のような指令を出してくるんですから。

【第三場】

大崎 アルコール依存症は、一生治らない病です。死ぬまで酒を一滴も口にしないこと——これが唯一の治療法です。考えただけで難しくないですか? お酒なんてそこら中にありますよ? コンビニだって自販機だってスーパードって、アルコールの海ですよ。中島らもだって言ってます。

大塚、やって来る。

店の外でしばらく、入るか入るまいかと葛藤している。

大崎 飲んじゃいけないとわかっているのに、飲んでしまう。失敗したと思う。自分はダメな人間だと責める。でもやめられないから、隠れてま

た飲んで、そのうち、ウソをつくようになります。「飲んでない」「もう飲まないって約束する」簡単に破ります。信用を失います。気がつくくと、ひとりぼっち…「孤独の病」とも呼ばれています。だからこそ、回復は一人じゃ難しいんです。この人はいつも「パーフェクトデイ」の前まで来て、入るか入らないかしばらく葛藤しています。

大崎、退場。

大塚、とうとう店内に入り、迷わずオブジェの前まで行く。
ポケットから日本酒のワンカップ取り出す。

大塚
(深いため息) ……

誘惑と戦っているのか日本酒を見つめブンブンと首を振る。

まるで、オブジェ相手に懺悔でもするかのようにー

大塚
ああ、またウソをつきましたよ。もう何百回目かわからないウソです。

お酒はもう二度と飲みません。誓いました。妻にだけじゃありません。小四の娘にも年長の息子にも誓いました。「お父ちゃん、もう絶対に飲まないよ」断酒宣言！ 有言実行だ！ しばらくの間は続きました。あれは、娘の運動会の日のことでした。百メートル走で1位を獲った娘を誇らしく思い、気分も高揚した昼休み。家族みんなでお弁当を食べました。妻が早起きしてこしらえた豪華なお弁当です。大きく広げられたシートには娘の同級生の家族もいます。「よく晴れてよかったですね」「ほんとですね」なんて平和な会話を交わしながら、お弁当のおかずを交換し合ったりしました。

麻衣、店の中に入ってくる。
が、大塚は気づかない。

大塚
炊き込みご飯で握られたおにぎりに。パクツと齧り付き、「うまいっ」、その瞬間、私の脳内で何かが弾けました。……じわーっと染み入っていく何か…口の中から鼻腔へ同時に胸に染みてゆくその香りは…アルコールです。おにぎりの具が奈良漬けだったのです。ザーーっつつつと封印していたのに！ 奈良漬けからのあの香り！ 日本酒の香り！
ずつとズーツとずつと我慢してたのに、ずつとずつと！！

間。

大塚 もう、ダメでした…。(加速するかのよう) 私はそのままリカーション
ップへ走り、しこたま酒を買って、ひとり川辺で乾杯しました…爽や
かな風とともに染みわたっていくアルコールの感覚。胸のここらへん
がじわーっと熱くなり、細胞ひとつひとつが「待ってたよ?」「もつと
もつと」…。そうして私は欲望のおもむくままに(くるっと振り向く)

麻衣、真顔で立っている。

麻衣 ……

大塚 ……!! (声にならない驚き)

麻衣 (ニツコリして) はいはい、どうぞ続けて。

大塚 ……つ、な、なんで(ここに)!!?

麻衣 待ってたよ? もつともつと、次は?

大塚 (見回してここは) ウチか? いや、ちがう。

大塚 私は酔ってるのか? いや、今日はまだ(飲んでない)。

麻衣 どうぞ続けてください。その先は?

大塚 や、あ…っ(慌てて日本酒を後ろ手に隠す)

麻衣 聞いてあげますよ? 聞きたいんです。どうぞ聞かせてください。

大塚 いや、あの…

麻衣 この際だから聞いてやろうじゃないの。アンタの細胞ひとつひとつの
ごたくを。

大塚 や、ちがうんだ、今のは――

麻衣 (怒鳴る) 言い訳なんか聞きたかないんだよ! 何回ウソ並べるんじゃ、

このバカたれが!!!

大塚 (ひーっ!) ごめんなさいっ! ごめんなさい!

間。

麻衣 約束、忘れてるわけじゃないよね?

大塚 忘れてないっ、忘れてないっ、

麻衣 もう酒は飲まない、って、言ったよね?

大塚 言いました。たしかに言いました。

麻衣　なんで守れないのかなあ？

大塚　：いやあ、私にもなんでなのか：あつ、今日はちがう！　違うんだよ。ツケを払いに來ただけなんだ。ほら、よくないだろ？　こういうのは、迷惑かけちゃよくないんだ。で、來てみたらマスターいないからちよつとどうしようとして留守番を。それだけだよ？　それだけ。今日は飲まないつもりだったんだよ。

麻衣　うそつけ！！

大塚　（ビクツとなる）

麻衣　運動会きっかけに、坂道転がるようにまた飲み続けてるよね？

大塚　（言葉もない）

麻衣　シアナマイド。

大塚　え？

麻衣　先生から出されたシアナマイド。抗酒剤。おかしいよねえ？　アレ飲んでアルコール入れば、動悸がして胸が苦しくなったのたうち回ってそれこそ救急車呼んでって、なるはずなのに、アンタはこうしてバーに來て飲み続けてるよねえ？

大塚　：すみません。実はシアナマイド飲むふりして流しに捨ててました：（やっぱり）：わかってるんですか？　自分のしてること。

大塚　わかってるよ、わかってる。わかってるけど：

麻衣　けど？

大塚　どうにもできなくて。自分では酒をやめたいと思ってるんだよ？　でも、やめられないんだよ：

麻衣　：

大塚　私だってね、好きで飲んでるわけじゃないんだよ。

麻衣　（強く）死んじゃうからね！

大塚　：

麻衣　このままだと、アンタ絶対酒で死んじゃう！

間。

麻衣　：あのね。生きててほしいの。私は、アンタに。

大塚　：

麻衣　先生、言ってたよね？　肝硬変の一步手前だって。飲み続けてると肝臓がパンパンに腫れ上がって、いつか突然死ぬかもって。

大塚　脅かさないでよ：

麻衣 脅しじゃないよ。お願いですよ。飲まないでくださいよ…どうしたらやめられるの？ どうすればいいのよ？

大塚 今日は…飲まないよ…

麻衣 今日だけじゃなく！ 明日も！

大塚 三日に一回にする。三日に一回だけ。量を決めて飲むから。

麻衣 できっこないでしょ？ 一回飲んだら、際限なく飲むでしょ？

大塚 今度こそ、ちゃんとする。

麻衣 信用できない。

大塚 信用して。大丈夫。今度こそだいじょうぶだから。

麻衣 (ため息) あー、首に縄つけてずっと見張ってたいわ。

大塚 約束する！ 今度こそ！

麻衣 ……

大塚 な？ 約束するから。

麻衣 離婚届。

大塚 えっ、

麻衣 私はサインして判を押してありますから。

大塚 おい、やめようよ。

麻衣 言いましたよね？ 最後通告書だつて。

大塚 う、……

麻衣 やめないなら、判を押してもらいますから。

大塚 ……

麻衣 ちょっとは考えてください。子供たちのことも。

大塚 うん…

麻衣 私のことも…

大塚 どうせんじやないか。

麻衣 (見ていて)

大塚 …ごめんなさい…ごめんなさい…

間。

麻衣 いくら？

大塚 へ？

麻衣 飲み代。何日ぶん？ 何週間ぶん？

大塚 ……

麻衣 これが最後の、支払いの肩代わり。

大塚 ……
麻衣 (ジロツと大塚を睨み) 金輪際、やめる。誓ってください。
大塚 ……
麻衣 ほら。
大塚 私は金輪際、酒を飲みません…ハイっ!

その瞬間、ゴンツという音。

大塚が酒のワンカップを落としたようだ。

麻衣のなんとも言えない表情。

【第四場】

毒々しい照明が光る。

酔った神田がカラオケで平井堅の「ノンフィクション」を熱唱している。

テーブル席には上野、目黒、田端が手拍子している。

カウンターにはいつものように大崎。

歌が終わるとみんな拍手。

上野 よっ、平井堅!

神田 (テーブル席に来て) どうも、どうも。

田端 カンちゃん、この曲ばっか。もう耳にタコ。

神田 いいじゃないすか。いいこと言うわー。平井堅。なんか死んじゃった友達に向けて書いた歌だとか、マジ最高(話しながら)

神田、尻ポケットからリコーダーを取り出す。

神田 バイト、決まりました。

目黒 バイト? 楽器屋?

神田 いえ、リサイクル屋です。(と、もう一本取り出す)

上野 へええー(と感心はなさそう)

神田 や、余ってていらないうって言うんで。懐かしいなあって。俺、昔、ちよっとだけ楽器やったことあって。トランペット。中学の吹奏楽で。

田端 カッコイイじゃん。

神田 最初はマウスピースって言って。こんなちっちゃいの。鳴るまで（これ）は持たせてもらえないんですけど。いっくら吹いても鳴らなくて…結局、辞めました。

上野 あー…

神田 …はい。

と、馬場、入って来る。

いつもとは違うスーツ姿。

テーブル席にはつかず、カウンターに座る。

馬場 炭酸水。

大崎 （一瞬、馬場を見るも）かしこまりました。

テーブル席の各々、見ていて、

田端 馬場ちゃん、どうしたの？

馬場 や、別に。

田端 どしたの？ それ（スーツを）法事かなんか？

馬場 就活。

田端 は？

上野 え、（神田を見て）流行り？ 就活、流行り？

神田 俺はバイトっすから…

馬場 マスター、今まですみません。ツケの分は給料出たら払うんで。

大崎 あー、そう？ それはありがと。（と、ペリエを出す）

馬場 まだ完全に決まったワケじゃないんですけど。でも、俺もね、マスターみたいになんかした人間になりたいっていうか。

大崎 僕はちゃんとした人間じゃないですよ。

馬場 や、こうして店を経営して！ 俺らみたいなのに優しくしてくれてるじゃないですか。

大崎 叔父から譲り受けただけだから。去年、酒の飲み過ぎで死んだの。大動脈瘤破裂で。親父はもつと前。すごい量の血い吐いて。二人ともアル中。僕もアル中。

馬場 えっ！

目黒 マジすか！？

大崎 あれ？ 話してなかったっけ？

田端 みんな知ってるよ。

神田 (頷く)

上野 ……

馬場 初めて聞いた…

大崎 まーね。壮絶な人生の見本みたいなさんざん見てきたからね。しかも身内二人のあの末期ったら。酒が心底怖くなったね。でも簡単じゃないからね(やめるの)。けど、キツパリ。もう十年になるかなあ。

田端 でも「本当の姿」はアル中つすよ。

大崎 そうじゃないって思いたいから。今はこうして十字架?(背後の酒を)しよって生きてるわけ。

馬場 すげえ…酒に囲まれてるのに。すげえ…立派ですね。マスターは立派なんですわね! 感心しますよ。尊敬しますよ。人間やろうと思えばできるとは…

気になっていた田端、カウンターまでくる。

田端 バーバちゃん、こつち来て飲もうよ。

馬場 ……

田端 炭酸水なんて「らしく」ないじゃん。

馬場 俺、酒やめるから。

田端 (えっ!?)

目黒・上野 (顔を見合わせる)

神田 (聞きながらどンドン飲んでる)

馬場 今日から禁酒宣言。いや…断酒宣言。

田端 なーに言ってるの? 俺たちに酒、やめられるワケないでしょ。

馬場 一緒にしないでよ。酒もやめるし就職もちゃんとするし真面目な生活する。

田端 えー…

馬場 俺もうヤなんだよね。ヤだったんだよね、こんな生活。楽しみって言ったら酒飲んであとはゲームか漫画か…バイト暮らして生活なんて余裕ないし。つか、ふつうに毎月足りなくてちよこちよこアイフルで借金してるし。年金なんてしばらく払ってないし。このままじゃ老後、路頭に迷うよ。そんなのイヤだよ…ていうか、フツーに生きていきたい。そのうち結婚とかして、子供なんかできちゃって、進路の相談とか乗ってやって、誰かのために…生きてる実感って…

…人並みな生活したい。

上野 その前に、酒やめられないだろ。

田端 ババちゃん、今まで何回断酒宣言したのよ。何回破ってきたのよ。

馬場 もう今までとはちがう。本気でやめる。断酒会も再開する。

目黒 なんですか？ 断酒会って。

上野 そういふのがあるんだよ。見ての通り、「酒を断つ」。二度と飲まない、

って誓ったやつらが集うの。慰め合うの。俺は無理、ああいうの。雰

囲気がな…たまねえのよ。

神田 マスター。(おかわりを)

大崎 はいよ。

と、出入り口の外、大塚がやってくる。

すでに酒は入っている様子。

大塚 ああ、うう…ダメダメ、絶対ダメ…。

店に入るか入るまいか逡巡している。

みんなは酒を口に運び、段々と酩酊してくる。

馬場 (大崎に) マスターも断酒会行ってるんですか？

大崎 いや、僕はAAね。たまに、ふら〜つとね。

目黒 AA？ 断酒会とは違うの？

馬場 (加わって) AAは匿名で参加できて少しフラットな感じ。どっちも酒を飲まないって決めた人間が集まる。一人じゃやめるのは難しいから。

上野 更生プログラムにあるのよ。退院したらそこ行けて紹介されるの。病棟に。

目黒 …更生プログラムに、病棟…

上野 地獄だぞ。(思い出して)最初は酩酊して病院に無理やりブツ込まれるだろ。起きたら監獄みたいなどこ。(手首、足首)こことここ、なんかバンドみたいなので拘束されんの。

目黒 すげえ…

上野 目が覚めたら大変よ。酒抜かれてるから。狂いそうになんの。「酒！ 酒くれ！」苦しくて暴れて、「ここから出せー！ お前らぶつ殺すぞ！」看護師なんか男しかいなくて押さえつけられて注射されて気い失っ

て目、覚めて「このやる！ 死んでやるー！」そのうち、ガタガタ震えてきて、汗が噴き出てきて、看護師十人ぐらいみんなして俺に向かって襲ってくんだよ。

目黒 襲われるんですか！？

上野 幻覚だよ幻覚。ま、その時はマジだっと思っただけ。あれがな…

上野・田端、馬場も、思い出して暗い顔になる。

大崎 お待たせ。(酒を運んでくる)

神田 あ、すみません。(すぐに飲む)

大塚、結局、店に入ってくる。

大崎 いらっしやい。

大塚 (バツが悪そうに) …ごめんなさい、いつものを…

大崎 かしこまりました。(日本酒の瓶とグラスを出す)

田端 あ、つつかつちゃん。

大塚 (ちよつとカウンターでトジエスチャー)…ダメねえ…ほんとダメ。

出されたボトルから酒を注ぎ、ピツチ早く口に運ぶ大塚。

と、その時、神田が口を押さえて立ち上がる。

神田 うっ、

大崎 あ、トイレで頼むよー。

神田 (トイレに向かうが足元おぼつかず)

大塚 あらあらあら、カンちゃん、大丈夫？

神田 あ、うっ、

大塚 ああ、ちよ、ちよちよ、こっち、こっちよ。

大塚ボトルを抱えたまま、神田をトイレに連れていく。

なぜか仲良く入って行く。

神田の声 うえーっ、

大塚の声 もつとよ、もつと。頑張っ♪ ゴールはすぐよー

目黒 断酒会で酒、やめられるんですか？

馬場 やめられるよ。現にやめてる人はたくさんいる。

目黒 ほんとに？へええ、

馬場 一人だと無理だけど、仲間がいればやめれるんだよ。

目黒 仲間。

田端 酒仲間。俺ら、俺ら。ね、ババちゃん？

馬場 ちがうよ。(そういうことじゃない)俺は酒やめるんだって！

上野 (鼻で笑い)ムリじゃね。

田端 ふうん。ま、いいけどね。行くんだったら大久保さんによるしく言っ

といてよ。(目黒に)リーダー。断酒会の。もう二十年も酒飲んでない
っておじいさん。

目黒 二十年：すごいっすね。マスターの倍っすね。――

馬場 …大久保さんは…スリップしたよ。

田端 えっ、うそっ！飲んじゃったの！？

上野 ほーら。輪になってお手てつないだってダメなもんはダメなの。どう
せ口だけなんだよ、そういうやつは――

と、突然、馬場が上野につかみかかる。

馬場 いま何て言った！(興奮して怒りの顔)

上野 (抵抗して)んだよ、

馬場 いま、なんて言った！

上野 なんだ！？

馬場 何て言ったんだよ！

と、目黒が間に入る。

目黒 まあまあ、まーまーまーまー

揉み合うが、目黒に引き剥がされる。

興奮している二人。

大崎 ちょっと、そういうのは外でやって。

目黒 よしましよよ。よしましよ。

上野 (目黒の手を払い)なんなんだよ！

馬場 (上野に怒りの目を向けている) ……
田端 ババちゃん? どうどう…

間。

馬場 大久保さん、死んだよ。

田端 えっ、

馬場 ……

田端 うそ…なんで、いつ?

馬場 ……二、三日前。スリップして酒飲むの止まなくなつて、家族に顔向けできなかつたのか、逃げるようして行方くらませて…

田端 うそ…

馬場 あの大久保さんがスリップなんて…発見されたの、川崎の方の簡易宿所…。

全員 ……

馬場 握りしめてたらしいよ。ワンカップの瓶。すごい力だったのか、手がこんな風に硬直してたつて。

間。

馬場 俺、そんな最期やだから。死ぬ時まで酒のことしか考えられないとか、やだから。最後の最後に執着してたのが…なんで酒なんだよ。誰ともしゃべらずにたった一人で…なんなんだよ、簡易宿所つて…悲しすぎるでしょ。なんのために生まれてきたのよ。大久保さん、二十年頑張つて、そんなんで人生つて終わらせていいのかよ…?

静まり返る一同。

と、そこへトイレから神田と大塚が戻る。

馬場以外は、なんとも言えない心理で酒を飲みだす。

神田 あー、すいませんでしたっ、(グビーっとお酒を飲み干す) はーっ、

(大塚にも進める) どうぞどうぞどうぞ! あっ、空。空だ。

大塚 (自分のボトルを持ってきて) あるよあるある、ここにある♪

神田 あったあ! もー! はいっ (リコーダーを渡す)

大塚 あらあらあら。吹いていい? 吹いていいの?

神田 吹いて！ どうしても吹いてっ！

大塚 ぴー♪（二つ持って鼻で吹く）

馬場 俺はやめるよ。ぜったいやめる。酒に支配されたくない。

全員 ……

馬場 酒に支配されてる人生なんてイヤだ。みんなだっけわかってるんでしょ？ フツーに、楽しむように、お酒飲めたくないじゃない。

全員 ……

そこへ馬場の携帯が着信する。

上野 二十年やめても無理なもんはムリなんだよ。あー、なんか酒まづくな

った。

目黒 飲み直しますか。

馬場 （出て）もしもし。あ、もしもし…え？ え？ ちよっとすみません。

ちよっと、待ってください（店の外へ向かい）

出入り口の外へ出る馬場。

馬場 すみません。今日はありがとうございました。や、すごくいい会社で。

ぜひ自分もここで頑張りたいと。え？ …や、でも…はい。…はい。

はい。

中では笛を吹いての大騒ぎ。

馬場 ……はい。……そうですか。わかりました（電話を切る）

しばらくの間、佇んでいる馬場。

やがてそのまま去って行く。

中では盛り上がっているみんな。大崎、片付けを始めながら、

大崎 はいはいはいっ！（手を叩き）今日はもう閉店ね！ はい、もうみんな

な帰って！（観客に）断酒はねえ、ほんとーに難しいです。心を円グ

ラフで表したとして、二十パーセントが何らかの要因で欠けていて、

これを酒で埋めていた——、僕らです。でも、酒をやめてしまったら？

心は欠けたまま…ふんばらなければいけない。欠けた部分を埋めるな

にかを見つつけられれば、回復につながる。それは希望や、仲間や、家族だったり…

ぐでんぐでんの様子で出口に向かう各々。

【第五場】

テーブル席には渋谷と麻衣。

大崎 一方、関わった人間はそうはいきません。迷惑かけられっぱなしで、ほとほと疲れています。周りの人間を巻き込む病——身近にいる人はとても苦しい。自分の問題だけでは済まないのがこの病気の厄介なところなんです。

大崎、マグカップをそれぞれの前に置く。

麻衣 ありがとうございます。

大崎 じゃ、僕は買い出し行くんで。

渋谷 ……本当にありがとうございます。(奥さん)紹介してくれて。

大崎 いえいえ。あ、看板だしてないから、誰か来たら追い返してください。

麻衣 (笑って)わかりました。

大崎、エコバッグを手に出て行く。

渋谷 お忙しいですよね、すみません。

麻衣 大丈夫。実家も近いし。チビの迎えも母に頼んだから。

渋谷 誰にも相談できる人がいなくて。

麻衣 看護師さんって聞いたけど？

渋谷 看護師でも専門外なんです。私、総合病院勤務なんで。アルコール病棟のある病院って日本ではまだまだ少ないし。専門知識なんてないんです。

麻衣 (笑って)何もできないよ？ 私が相談に乗ってほしいくらいだよ。

渋谷 こうゆう話ができるだけでもいいんです。もう…何やってもダメで。

私の言うことなんか聞いてくれなくて…この間なんか奪い合いです。

麻衣 お酒。私なんて目に入っていないんです。
わかる。

渋谷 普段はね、優しいんですよ？ 面白いし。ずっと一緒にいたいって。でも、一緒に暮らし始めて、お酒、あんなに飲む人だって思わなくて。別に酔って暴れるとか暴力ふるうとかないんです。ただ、「お酒やめて」って言う人と人が変わったみたくなるの。あの執着する感じ…こわい。だって、病気だもん。

渋谷 それは…わかってます。

麻衣 ある意味、ほっとくしかない。

渋谷 ほっとく？

麻衣 ほっとく。飲みだしたらほっとく。

渋谷 そんなのできないですよ。

麻衣 アルコールが一度入ったら、セーブできないよ。

渋谷 それはそうですけど…私は別に、お酒自体をやめてほしいワケじゃないんです。そんなに好きなら、ほどほどで楽しく飲んでくれるなら。ほどほどなんてないって。ぜったいない。

渋谷 ……

麻衣 回路が壊れちゃってるんだよ。コントロールできる脳みその回路が。

渋谷 ……

麻衣 認めるしかないんだよ。

渋谷 認める？

麻衣 自分は病気だ。アルコールが一滴でも体内に入ると、止まらなくなっちゃう病気だ。

渋谷 ……

麻衣 自分だけの問題じゃないんだから。社会生活に支障をきたしてるんだから。人に迷惑かけて生きてるんだから。まったく、冗談じゃないよ。お酒さえなければ、人生もつと違うのに。私の人生だって、子供たちの人生だって…私はお酒が憎い！ うそ。撤回。私はあの人を憎い！ えっ…

麻衣 亭主、殺してやりたい、って何回思ったかわからない。

渋谷 それは…わかります。うん、わかる。私もあいつ、もうどっか行っちゃって帰って来なくていいのに、って何回も思った。でも…すぐに心配なる。どっかで死んでたらどうしようって。仕事してても頭から離れなくて。

麻衣 関わらなきゃ、楽なのにねえ…

渋谷 いっそキレイになりたいです。今はもう、好きなのかもわからない……
麻衣 (だからって) キレイになれる？

渋谷 さあ。

麻衣 (小さく笑って) よね。

渋谷 (麻衣を見て) もう。

と、その時、かなり酔いが回った神田がドア外にくる。

神田 (ドア開けて呂律回らず) あれえ？ あれれ？

二人 (見る)

神田 俺、間違えた？ 間違えた？ (店確かめ) や、ここはパーフェクトデ

イ！ パーフェクト：「酒日和」って、(一人受けて) なんなんだっ、

マスター！ 「酒日和」？

渋谷 マスターなら買い出しです。

神田 あっ！ あーっ！ 彼女さん！ 彼女さんじゃないですか！ また

探してんですか！？ 田端さん。ご苦労様です！ (と敬礼)

が、そのままその場にひっくり返る。

麻衣 大丈夫？

麻衣が手を貸すと、神田、ジッと見て、

神田 あれ？ 初めましてさん…あなたはあゝ

麻衣 旦那がこの常連で、大塚です。

神田 おおつかさあん？ あーっ、大塚さん！ 笛の！ こっちらこそお世

話になってます(と頭を下げぐらぐら)。大塚さあん。こっちはタバタ

さんの彼女さんっ、いいなー、あー、いいなー。いいっすねー。愛さ

れてるっっていうっすねー。ね、マスター！

麻衣 マスターは出てます。お店はまだですよ？

神田 あー、あー、あー、まだか。(オブリエを見て) ……。ドロシーか。あ、

これ、ドロシーね！ んじや、また！

神田、相当な危なっかしさで出て行く。

麻衣 あの人、連続飲酒になっちゃってるねえ。
渋谷 連続飲酒？ 朝から飲むってやつ？

麻衣 朝だろうが夜だろうが、ずっと飲んでる。こうなるとけっこう危なく
て、命の危機感じて、ウチは病院送りにしてやったけど（笑う）
よく言う通りにしましたね。

麻衣 あらゆる手段を考えるわけよ。テキに勝つためにね。離婚届とか。

渋谷 本気ですか！？

麻衣 それぐらいしないと。っていつても、あのやろう…すぐに飲みやがっ
た。

渋谷 （笑う）テキはしぶといですね。

麻衣 前に一度ね、見捨てたことがあってね。

渋谷 え、

麻衣 子供たち連れて実家に帰ったの。そしたら会社から連絡あって、何日
も出勤して来ないって。家に帰ってみたら、部屋がぐっちゃぐちゃで、
あの人、それこそ酒の瓶の中に埋もれてた。パンツ一丁で（笑）しか
も、泣いてるの。泣きながら飲んでるの。「飲みたくないんだよ、身体
が勝手に飲んじゃうんだよ」何度も何度も私に謝るの。聞き飽きたセ
リフだったんだけど、ズドンときた。まるで酒に襲われてるみたい。
大変な病気なんだ。…その時、ようやく気がついた。

渋谷 何にですか？

麻衣 一人ぼっちにさせちゃダメだ。一人だと、この人死んじゃうな、って。

渋谷 ……

麻衣 ひとりじゃやめられないんだよ。

渋谷 ……

麻衣 誰かの助けが必要。

渋谷 助け方がわからないです…

麻衣 誰かが傍にいてくれるっていうのは、大きいんじゃないかな。

渋谷 ……

麻衣 ほんとは届いてるんじゃないかな。やめられないだけで。そばにいて
くれることは、ちゃんとわかってるんじゃないかな。

渋谷 ……

麻衣 ……

カウンターのの中には大崎。

上野、大塚、目黒、馬場はイスを輪のようして座っている。

みんないい感じに酔っている。

馬場は炭酸水で押し通している。

神田ひとり、立ってしゃべっている。

神田 (以下しゃっくりしながら) や、俺はダメな人間なんすよ。五歳下の弟にも見放されて…お袋の面倒、俺が見るはずだったんですけど、お前に任せてられないって、あいつとあいつのヨメさん…五歳ですよ？五歳も下。弟。しっかりしてんの、昔から。や、お袋もその方がよかったです。その方が幸せなんです…それからですかね。飲む量が増えていったのは。やめられないんですよ…

と、そこへ、田端が入ってくる。

田端 あれ？ 何やってんの？

大崎 いらっしやい。

田端 マスター(いつもの)(みんなに)なに、なに？

目黒 断酒会です。あ、「なんちゃって」断酒会。

田端 なんちゃって断酒会？ なんでそんなモンやってんの？

上野 いーじゃねーか。

目黒 イメージ湧かないっていったら、こんな感じになって。

大塚 なんか…ほんとに断酒会してるみたいになくなってきちゃった…。

馬場 なにもこんな輪になってやらなくてもいいじゃん。

田端 あれ？ 炭酸水？

馬場 うるさいな。断酒してるって言ったでしょ。

神田 (かなり酔って) 俺は、断酒は…しません！

上野 よっ、カンダ！

神田 しません…できません…！(ぐでつと座り込む)

上野 そうだ、お前にはムリだ！

大塚 じゃあ、じゃあ…次は私でいいですかね。(立ち上がる)「なぜ酒に走った」最初は会社の付き合いでした。多いんです、接待。弱かったんです、お酒。ほんとは。けど、得意先のお偉方相手に言えませんから。機嫌とって、仕事とって、じゃないと上司に叱られるし部下に見下さ

れるし…で、お酒飲むとなんかパーツと言えるっていうか、気が楽なんです。お酒があるとうまくいく。気がついたら…やめられなくなっ
てしまつて。こんなハズじゃなかったんです。(無力のように座る)

え？ 終わり？

大塚 …はい。なんだか落ち込んできて。…実は今日、病院に行ったら数値
がよくなって…

馬場 ガンマ？ 高いの？

大塚 …ガンマはいつも高いんですけど、肝臓がもう…このまま酒飲み続け
たら死ぬって…今日は控えめにしています。

上野 医者はみんなそう脅すの、俺らみたいなのに。いいか、(目黒に)俺に
酒をよせと言うな。

目黒 え？

上野 いや、セリフ。リービンググラスベガスって映画があんの。俺、ああい
う風に生きたいんだよ。イヤ、死にたいの。

目黒 どっちなんですか。

上野 映画でな(立ち上がる)主人公の脚本家が(これ)ニコラスケイジな。

酒で仕事も信用もなくしちまつて、身体もボロボロなの。もう、死ぬ
なつてわかつてるの。こいつ近いうち死ぬなつて。本人もそれ分かつ
てて、有り金パーツと酒にはたいてベガスの安ホテルに泊まつて、娼
婦と一緒に。スーパーで酒買い占めて、ズーっと飲んでるのよ。ただ
飲んでるの。幸せなの。すげえ幸せなの。俺の理想なのよ。あの目に
最後に映つたもんは、一体なんなのか…？ ロマンがあるじゃねえか。
そんないいもんじゃなと思うけど。

上野 酒で死に行くんだぞ？ 本望じゃねえか。

馬場 大久保さんは望んでそうなつたんじゃないと思うけど。

上野 は？ ニコラスケイジの話だぞ？

馬場 大久保さんは飲みたくなかつた。でも、抗えなくて飲んじやつた。ぜ
んぜん幸せなんかじゃない。苦しかったと思う。

上野 あのなあ、

馬場 その主人公だつてそうじゃん。最後に目に映つたもんなんてないよ。
悲しみしかない。心から望んだ幸せじゃない。

上野 うるせーな…幸せなんて自分が決めるんだよ。大久保さんつてやら？
飲みたかつたに決まつてるだろ。

馬場 断酒してる人間が飲みたいわけない！

上野 仕方なく断酒してんだよ。本能は飲みたいに決まつてる。お前はいま、

飲みたくないのか？

(言葉に詰まる)

馬場 断酒ってのは、ガマンすることなんだよ。ガマンしなければ幸せなの。
上野 酒飲まないで正論振りかざすなら、喫茶店でも行け。

田端 (上野に) ちよつとちよつと。もー、ババちゃんも。就職決まったから
つて。

馬場 不採用だったよ。

田端 え、そうなの？

馬場 てつきり決まったもんだと思つてたけど…また他の会社探すよ。諦め
ない。前みたい生活に戻るのイヤだし。

神田 マスター(お代わりを) ババさんも。飲みましょ。飲みましょ。

田端 飲まないんだって。

神田 えー、飲むから(ここに)来たんじゃないすか？

馬場 酒に勝つんだよ。マスターみたいに。酒を目の前にしても飲まない。

大崎 いい心意気だと思うよ。なんなら一緒に働く？ あ、ダメだわ。余裕
ない。みんなツケばっかだから。

全員 (それぞれいい加減な謝辞でお礼)

大崎 まあ、どうせ、そこかしこの店で入店禁止でしょ？

全員 (そうなんだよ、的に同意)

大崎 しょうがないな、まとめて面倒みよう！ ここに来なさいっ。

全員 (さすが元アル中、だの、おかわりだの)

大崎 はいはい、かしこまりました。

馬場 マスター、ふところ深いですね(感動したように)

大崎 (ちよつと真剣に) 後継者になる？ (がすぐに笑い) なんて、ははっ。

その時、出入り口から麻衣と渋谷が入ってくる。

麻衣 こんばんはあ。

渋谷 こんばんは。

ギョツとしたような、大塚と田端。

大塚 なんてっ…

麻衣 たまにはね、私も飲もうかと思つたの。うちには一本もお酒置いてな
いから。(渋谷に) ほら、あるとあるだけ飲んじやうから。

渋谷 うちもです。ねー。(と麻衣と微笑み合う)

田端 なんだよ、マジかよ。

麻衣 マスター、ワインもらえますか。赤かな。

渋谷 私はウーロン茶を。

大崎 かしこまりました。

目黒 大塚さん、顔色悪くないですか？

大塚 や、そんなことは…(と習慣でグラスを運ぼうとして)

麻衣 (にっこり)

大塚 (目が合い、飲むのをやめて小さくなる)

神田 (麻衣に) おおつかさんの奥さあん、飲める口なんすね！

麻衣 昔からワイン二本開けようが顔色ひとつ変わらないの。血筋ね。普段

は飲みませんよ。私はコントロールできますから。

神田 (田端に) 彼女さんもようこそつ。タバタさんに会いに来たんすね。

麻衣 私たち結託したのよね。約束ちゃんと守られてるか報告し合うの。

渋谷 せめてお酒減らすつて、田端も約束してくれまし。

二人 ねー。

田端 やりづれー：

大崎 はい、どうぞ。

上野 (唐突に) んじゃ、次は目黒っち。

目黒 え？ んー、や、俺は別に…

上野 聞くだけ聞いて高みの見物か？

目黒 話すほどの経歴ないですし。

上野 なに経歴つて。経歴つてなに？

目黒 いや、病棟とか？ 断酒会とか？

上野 お前、俺たちのこと笑つてない？ 自分だけ違うとか思つてない？

目黒 え、そこは違うでしょ？ 明らかにちがいますよ。

全員 ……

目黒 や、や、や。確かに、ここで皆さんと知り合つて、一緒に飲んで楽

しいなあつて、こうやつてますけど、大体、酒強いし。変わんないね、

つていつも言われるし。入院とかしたことないしね。酒飲みなのは認

めますけど、それだけです。ただ、それだけ。そんなん、いっぱい

るでしょ？ 世の中に。みんな会社帰りにお酒飲んで酔っ払つて終電

で帰つたりするじゃないですか。そう言う人、まるっと全部、呼ぶん

ですか？ アルコール依存症つて。

大塚 でも…幻覚見えてたつて言つてましたよね？

田端 虫、見たって言った。禁断症状じゃん。

目黒 あれは…今になっては本当に見たかわかんないし、皆さん、面白そう
な話してたから。

大塚 会社で仕事中心っ所りお酒飲んでませんか？ 私もやってたんです。
酒切れるのが怖くて、リポビタンDにウイスキー入れて。それぐらい
やってないと禁断症状は出ないと思います。

目黒 ……

上野 お前、仕事なにやってんの？

目黒 なにって…外資系です。

上野 (鼻で笑って) 外資系って…立派な職業就いてもアル中かよ。

目黒 (カッとして) 悪いですけど、俺はちゃんと仕事してます。子供の頃から
努力してきて、いまの場所にいるんです。あなたたちとは違うん
です。

上野 (怒鳴って) なんだ、てめえ！

目黒 ……

上野 だったら、そういうやつらと飲めよ！ こんな場末のバーで飲んでん
じゃねえよ！

大崎 場末のバーで悪かったですね。

上野 大方、仕事のストレスで酒に走ったんだろ。そんなやつ、病棟にゴロ
ゴロいるよ。医者とか弁護士とか教師とか、言ってたよ。ストレスだ
って。

目黒 ……

上野 いくらエリート街道走ったって、道外れば同じだろ。お前はそうや
って高い酒ここで飲んで、俺ら見て安心してるだけだ。

目黒 (立ち上がる)

上野 あん？(も、立ち上がる)

が、目黒はカウンターへ行き、不貞腐れたように飲み始める。

目黒 ……

上野 ちっ、俺らみたいな底辺の人間と話すのはくだらないんですと。

田端 仕切り直ししよ。飲む、飲む？ ババちゃんも。

馬場 (カウンターに行き) 炭酸水おかわり。

田端 なにもー、マスターボトルもってきて。

渋谷 (見ていたがやってくる) 約束したでしょ？

田端 これ飲んだらやめるから。

渋谷 断酒できないなら節酒するって。

田端 最後だよ、最後。だいじょうぶ。もう、心配かけない。

渋谷 いい加減にして。何回約束破ったら気が済むの？

大崎 お待たせー。

渋谷 (ボトルを取り上げる) マスター、出さないでください。

田端 おい、やめろよ。

渋谷 それ飲んだら帰ろう。

田端 あと一杯。あと一杯だけ飲んだら帰るから。(取り返そうとする)

渋谷 信用できない。

田端 離せよ。返せよ。

神田 タバタさん、彼女さん、泣いてますよ。

渋谷 泣いてない！

神田 あ、泣いてないです。

上野 俺に、酒をよせと言うな(ニコラスケイジ風に)

大塚 よせてって言われてもねえ(と飲む)

上野 (渋谷に) アンタ、まだ見捨ててなかったのお？ ぎやはははっ！

渋谷 なにおかしいんですか！ (酒奪い取られ) ちよっと！

田端 これ飲んだら帰る。これ飲んだら(と飲む)

不意に麻衣、立ち上がり、

麻衣 (怒鳴って) おんどりやあ！ 帰るっていったら帰らんか、こらあ！

全員 (一瞬、驚くも)

カオス状態はまだ続く。

目黒はいつの間にか、カウンターで潰れている。

大崎 (手を叩き) はいっ、はいっ、はいっ！ もう閉店ね、閉店——！

【第七場】

暗い店内。

カウンターには器用に身体を折り畳んで眠り込んでいる目黒。

肩にはブランケットがかけられている。
ソファには爆睡している神田と上野。目黒、目を覚ます。

目黒 ……。

事態を飲み込めないようだが、ほかのみんなは帰ったらしい。
立ち上がると身体に違和感がある。
と、その時、自分の手が震えていることに気づく。

目黒 ……。

酒を飲もうと辺りを見回す。
が、その時、(目黒の目には)壁の隅っこから何か黒いものが染
み出てくることに気づく。

目黒 え…… (目を凝らす)

と、その染みがどんどん大きくなるのが分かる。
よく見ると、無数の羽の生えた虫が湧き出ている。(と見える)

目黒 ……っ！

羽虫が一匹、飛んできた。

目黒 やめろっ (払う) やめろっ！

また一匹、払っても払っても目黒めがけて飛んで来る。
上野、目黒の声で目を覚まし、

上野 …おい？

目黒 …っ、うっ、やめろ、…っ、やめろ！ うわっ！

顔、耳に障る羽根の音、追い払うも追い払うも身体中にまとわりつき、狂ったように店中逃げ回る目黒。
神田は深く眠っていて気がつかない。

上野 おい、大丈夫か？ おい。

目黒 やめろ！ やめてくれ！ あー、うわー！

上野 (目黒に近づき) どうしたんだよ？ おいつ。

目黒 虫！

上野 虫…？

目黒 羽虫！ ここに！ ここにも！

上野 (見直し) そんなのいねえだろ。

目黒 うわっ！ ああっ！

上野 おいつ、しつかりしろ。

目黒 (顔中、覆いつくし、声にならない絶叫)！！

上野 お前… (幻覚か？)

目黒 (身体が真っ黒になるぐらい羽虫に襲われている)！！！！

のたうち回って絶叫を上げる目黒。

上野 いないぞ！ お前が見てるのは幻覚だ！ 何もいない！

目黒 …ちがう、いっぱいいる！ (恐怖に怯え)

足をもつれさせながら、出口に向かう目黒。

上野 おいつ。(も、追いかける)

ドアを開けて虫から逃れるように出て行く目黒。

上野も心配して追って行く。

【第八場】

大崎、エコバッグを手にやってくる。

ドアを開け、店内に入り、開店準備に取りかかりながら、

大崎 親父はいわゆる飲んで暴力をふるう人でした。叔父の方が僕をかわい

がってくれたけれど、この人も酒に支配されている人だった。こんな

大人には絶対にならない、決めていたのに、なぜかするとそつ

ち側へ行ってしまった。遺伝です、遺伝。僕の場合はね。環境と遺伝。これは病理学的にも、証明されているらしいです。誰だって、初めはフツウの人だった。でも、一度ハマってしまったら、抜けられない。ぐるぐるぐるぐるぐるぐるぐるぐる、山手線に乗っているみたいに。終点はない。でも、途中下車することは可能なはず。——と、僕は信じた——……

神田、目を覚ます。

神田 ……んん。マスター…？
大崎 はいよ。
神田 あれ…すみません。俺また…
大崎 さすがに昨日のアレじゃ帰れないでしょ。
神田 すんません…（立ち上がろうとするが、立ち上がれない）ほんと、すんません…

見ると、神田のズボンには失禁したあと。

神田 あ、すみません…あ、どうしよ、すみません…
大崎 ……
神田 いま、掃除しますんで。すみません…
大崎 神田くん…
神田 あ、はい。
大崎 病院、行こう？
神田 びょう……いん…
大崎 普段、お客さんにこういうこと言わないんだけど、病院行こう。連れて行くよ。
神田 ……
大崎 店、開けるの遅らせるから。
神田 や……
大崎 行った方がいい。もう限界でしょ。
神田 や、マスター…
大崎 いま、支度するから——

神田、立ち上がりかけながら大崎にすがりつく。

神田 マスター…

大崎 行こう。

神田 俺…できないすよ。やめられないですよ。病院行っても、また、同じこと…どうせ何しても続かないし…俺なんて、ムリですよ…

大崎 神田くん、

神田 …こんな俺ですよ？ やめられる…？

大崎 みんな同じだよ。

神田 俺、やめられますか…？ ホントにやめれます…？

大崎 (強く) やめたいでしょ？

神田 ……

大崎 ずっと思ってるはずだよ？

間。

神田 (つらそうに) どうにもならないんです… (やめても) 俺には誰もいな

いんです…

大崎 いるよ。

神田 ……？

大崎 僕も同じだから。仲間だから。いるから、いっぱい。

神田 ……

大崎 一緒に行こう。待ってて。支度するから。

神田 ……

大崎、カウンターに入り、身支度を整えたりしている。

神田、立ち上がってふらふらと出て行く。

神田 できない…できないよ…

大崎、身支度を終え、店内をみると神田がいないことに気づき、

大崎 神田くん？ (トイレを確認したり)…神田くん？

立ち尽くしている大崎。

大崎 ……

【第九場】

店内には上野、大塚、田端、馬場がいる。

渋谷と麻衣も少し離れ、カウンターに座っている。

全員、喪服である。

テーブル席にはもちこまれた空き缶が並び、すでに酒は飲まれている様子。

酔いながらも悲しみに暮れていて…

馬場　なんで親族ってアレだけなの？ 三人だよ？ お袋さん、弟、ヨメさん。

田端　まだいい方なんじゃない？

大塚　…密葬ですから。

上野　厄介モノ扱いしてたんだろ。生き晒しとか言ってる。アレがあいつの末路。アル中の末路なの。

全員　……

田端　まーまー、飲みましょ。ババちゃんも。

馬場　飲んでるよ。

田端　炭酸水じゃない。

と、そこへ喪服姿の目黒が店に入ってくる。

目黒　あ、やっぱり、皆さん…

田端　間に合ったの？

目黒　はい。…顔、綺麗でした。側溝にはまって溺れてたとか、思えないくらいで。

麻衣　(来て) 塩。

目黒　あ、

麻衣　(肩や背中などにふりかけて) はい。

目黒　ありがとうございます。

上野　バカだよな。側溝ってこんなだぞ？ こんな低くて水なんてちよつとだぞ。なんで溺れるんだよ。どこまでバカなんだあいつは！

目黒 穏やかな顔でした。笑ってるみたいだった。

間。

と、突然、大塚が泣き出す。

大塚 ううつ、ううつ……カンちゃん！

馬場 つかっちゃん…

田端 泣いたらカンちゃん悲しむよ。明るく送り出してあげないと。

目黒 そうですね。神田さんを想って献杯しましょう。

上野 乾杯だ、乾杯。湿っぽいのは(あいつ)嫌がるだろ。

全員 (それぞれ飲み物を持ち) 乾杯！

大塚、ぐびつと酒を煽る。

渋谷 いいんですか？

麻衣 良くないよ。わかってる。

渋谷 ウチ、(神田のこと) 聞いてから、また飲む量増えました。

麻衣 うちもだよ。塞ぎ込んで飲んだ。

二人 ……

どんだん飲み出す各々。

馬場 マスターは？

目黒 火葬場まで着いていきました。ちよつと、嫌がられてたんですけど、

どうしても行くって。どうしてもって、譲らなくて。

上野 あの弟、ゴミみたいな目で見やがって。

馬場 お袋さん、わかってないみたいだった…認知症、相当進んでるね。

大塚 …弟さんが引き取るまでは、ずっとカンちゃんが面倒見てたのに。カ

ンちゃん、優しいですから…(また泣く)

と、今度は大塚がやってくる。

渋谷 あ、おかえりなさい。すみません、今、こんな状態に…

大崎 (気もそぞろに) あ、うん。

田端 (気づき) あ、マスター！

麻衣 いいですか？（と塩を）
大崎（遠慮する）
目黒 火葬、無事済みました？

それには応えず、棚のボトルをどんどん取り出す大崎。

馬場 なにやってんですか？ マスター？

目黒 どうしたんすか？

大崎 ああ、うん。これ、全部、そっちに運んで。

田端 えっ？

大崎 もう閉店。

目黒 今日はもともと閉店ですよ？

大崎 パーフェクトデイは、もう、閉店する。

全員 えっ！？

上野 冗談だろ？

大崎 冗談じゃないよ。今日限りで店は閉店する。

全員 ええっ！！！？

馬場 どういうこと！？ マスター、気でも違ったの！？

黙々とボトルやグラスをテーブルに運ぶ大崎。

大崎 ほら、ボサっとしてないで運んで。

目黒 あ、はいっ。

訝しく思いながらも酒を運ぶみんな。

と、大崎、グラスを二つ並べ、それぞれに注ぐ。

大崎 はい、カンちゃん。（と、グラスを前に）

全員（カンちゃん…？）

大崎 もう、苦しまなくていいから。

チンとグラスとグラスを合わせ、ぐびっと一気に煽る大崎。

間。

と、我に戻る一同。

全員 …っ！！
馬場 ちよ！ マスター！ お酒！！
田端 えっ、マジ！？
大崎 (酒が染み渡るのを全身で感じて) ……

さらに注いでもう一杯、飲む大崎。

大崎 はぁー……

目黒 だいじょうぶ、すか？

大崎 うん。大丈夫。ハハっ、飲んじやった。

全員 ……

大崎 ダメだわ。耐えらんなかった。…カンちゃんは悪く思わないで。僕の問題。僕の宿命。

大塚 いるんですよ、カンちゃんはまだ。

馬場 マスター…どうして…

大崎 ごめんね。ごめんごめん。いや、みんなの見本になればなんて、おこがましかったよ。

全員 ……

大崎 結局、酒を前にしたら無力だったよ。ハハッ。

馬場 ……十年だよ？ マスター。…十年やめてたのに…

大崎 十年の重み、あつという間。ハハハ…自分でも情けない。思い知らされたよ。結局さ、この十年制御してたのって…(黙る)

馬場 ……なに？

大崎 ハート。…心だったんだよ。

全員 ……

大崎 簡単に壊れちゃう。ハハっ。

全員 ……

大塚 ……(また泣く)カンちゃん…

大崎 (つらそうに)許してください。飲ませてください。今日だけは。ごめん…神田くん、ごめん…(ぐっと煽る)

間。

田端 飲みましょう。飲もう、(みんなに)飲も？

目黒 そうですね。今夜はとことん神田さんを弔いましょう。

上野 だな。あいつも今頃、天国で飲んでるよ。
馬場 ……

また「乾杯」して飲み始める各々。
大崎もどんどん飲んでいる。田端も大塚も。

大塚 びー♪これ（笛）、カンちゃんのお墓にお供えします。

上野 喜ぶよ、あいつ。酒もたくさん供えてやろうぜ。

馬場 ……やめてよ。

上野 あ？

馬場 天国に行つてまで、苦しむことないよ。

上野 やつと解放されたんだぞ？ 苦しむはずないだろ。

馬場 苦しいでしょ？ また天国で戦わなきゃいけないんだよ！ 解放してあげるなら、酒なんてお墓に供えないですよ！

と、考え込んでいた目黒だったが、

目黒 ちよつと…なんか（解せない感じで上野に）…解放？ されたつて言
いましたよね？

上野 解放だよ、解放。

目黒 やっぱ辛いんですね、上野さんも。飲むことが。

上野 はあ？

目黒 だって入院繰り返してたんでは？ てことは、治したい意志があ
つたつてことでしょ？

上野 ……

目黒 できないから、いま、ここにいるんですね。

上野 （カッとして掴みかかる）テメェ…！！ 自分はなんだ！

目黒 なんですか？

上野 お前はアルコール依存症だ！ 認める！

目黒 違います。

上野 幻覚見ただろうが。お前もこう（みんなのこと）なるんだよ！

目黒 ちがう…俺は違う。

馬場 （止めに入り）もう、やめてよ…

この情景を冷静な目で見ていた麻衣だったが、

麻衣 …もう、無理。(大塚のもとへ行き) あなた。

大塚 はい？(泥酔)

麻衣 お酒やめてくれないなら、今から離婚届提出してきます。

大塚 えっ、

麻衣 あなた死にますよ。このままじゃ。

大塚 ……

麻衣 遺された私と子供たちのこと、考えたことありますか？

大塚 ……

麻衣 神田さんの死を無駄にしないでください。

大塚 ……

麻衣 私の心だつて壊れます。もう、見たくない…。私は私を守ります。

大塚 お前……

大崎 (かなり酔い) そうだ！ 奥さんは自分の幸せ優先！ それでいいっ！

田端 (泥酔していて) そうだねえ、ね、美紀ちゃん。

渋谷 ほんと、そう…もう、本当にイヤ。

田端 アタシとお酒、どっちが大事？ とか聞いちやう？

渋谷 うるさいっ、

大崎 僕が悪いんですよ、全部。僕が神田くんを助けられなかったことが…

(泣き出す)

馬場 マスター…

上野 弔いだ、弔い！ お前もこっち側へ来い(と、馬場に酒を注ごうと)

馬場 俺は絶対に飲まない！ それがカンちゃんへの弔いだよ。

目黒 ……

と、大崎がカラオケを操作する。平井堅の「ノンフィクション」が流れ出す。

大崎 カンちゃん、ごめんね…

大崎 (酔いが回りながら) 歌いだす。

いつの間にか全員の大合唱へと変わっていく。

全員 (神田を重ねながら、自分とも重ねながら。泣いてる者も)

カラオケは続くが、飲み続ける田端のもとへ渋谷が向かう。
(曲と同時進行に)

渋谷 いつまで続くの！

田端 あ、らん？

渋谷 もうヤダって言うてんの！ どうしてもやめないならっ！

渋谷のボトルを奪って、グツと仰ぐ。

田端 えっ、

渋谷 (飲み干してしまっ)

田端 おい…それ、強い酒…

渋谷 ……

田端 お前、大丈夫…

渋谷、そのまま昏倒する。

田端 ！！ おいっ！

上野 なんだ？

目黒 ちよつとマズインじゃないですか？

麻衣 どいて！（顔を横にしたりと）

大崎 …あ、救急車、救急車…（なんとかスマホを取りに行き）

田端 美紀！ 美紀！

馬場も大塚もきて、みんなで渋谷を取り囲む。

大崎の代わりに馬場が電話をかけている。

田端 おいっ、おいっ！ 美紀！

目黒 道が狭いから外に！ 大通りまで運びましょう！

目黒と馬場で、渋谷を外へ運び出す。

泣きながらすがりつくしかできない田端。

大崎以外、全員が行ってしまっ。

大崎 (茫然として) ……

一人になった店内はたくさんの酒の瓶や飲んだあと……。茫然としていた大崎だが、また瓶を手取る。空っぽだった。他を探す、酒、酒……と、止まらない。中身の入った瓶を見つけてラッパ飲み。非常事態にも関わらず、止めることのできない自分が苦しい。逃げ出すように大崎、暗い店内の扉を開ける。出て行く、その背中。手にはしっかりと酒瓶を握り……。曲はクライマックスを迎え……。暗転。

【第十場】

日中。

誰もいない「パーフェクトデイ」酒の残りあとはそのまま。カウンターでは誰かが片付けている。馬場である。

馬場 よいしょ……

ごみ袋で空き缶・空瓶などを回収しながら。と、表に麻衣がくる。

馬場 あ、(ドア、明けて)

麻衣 こんにちは。

馬場 こんにちは。

麻衣 わ、

馬場 まあ、ボチボチやります。

麻衣 (入ってきてオブジェ見て笑い) いい気味。

馬場 え？

麻衣 あの後、タクシーで病棟にぶち込んだでしょ？

馬場 はい。

麻衣 襲ってくるんだって、コレ、大群で。
馬場 大群……つかっちゃんはドロシーかあ……
麻衣 大変だったみたい、あの人。……ちよつとだけ、いい気味。

間。

麻衣 離婚届は保留にしました。

馬場 はい。

麻衣 約束破ったら最後、迷わず役所に行きますけどね。

馬場 はい。

麻衣 もうちよつと、頑張ってみます。

馬場 はい。……僕も頑張ります。

その時、上野と目黒がやって来る。

上野・目黒 (麻衣に) あ、どうも。

上野 なんだよ、結構、片付いてんじゃない。

目黒 いらなかったですかね、手伝い。

馬場 ちよつとー。自分たちでしょ、散らかしたの。ほら、手伝って。

片付けに加わる二人。麻衣も手伝おうと、

馬場 (制して) 自分たちの後始末は自分たちで。

麻衣 (頷いて)

目黒 大塚さん、元気ですか？

麻衣 みたいです。まだ会えなくて。着替えだけ届けに、さつき。

上野 当分面会は禁止だからな(目黒に)

目黒 マスターに会いに行つて知りました。

麻衣 同じ病棟なんて、笑っちゃう。

目黒 ……十年断酒しても、あっけなかったですね……また逆戻りなんすかね？

間。

馬場 ……自分から病院行つたんだ……前に進んでるって思いたい。

上野 ……

馬場 マスターならきつと大丈夫。俺も今日は大丈夫。
目黒 今日は？

馬場 まずは今日飲まない。明日になったら「今日も飲まない」の積み重ね。
麻衣 (ジツと聞いていて)

カタチだけでも片付けは終わり、

麻衣 今から、美紀さんとお茶してきます。

馬場 元気になってよかったです。タバちゃん、相当こたえたみたい。こないだひよっこり断酒会に来るからびっくりした。

麻衣 ウチのも退院したら、よろしくお願いします。

馬場 : 僕の方こそ。(噛み締めて)

上野 (ジツと見ていて) : 俺も行こうかな。

馬場 はいはい、こころ入れ換えたらね。

上野 あー、喉渴いた。早く飲もうぜ。

麻衣 (小さく溜息) じゃあ、私はこれで。

三人 (それぞれの挨拶で)

麻衣、出て行く。

馬場 (カウンターに入り) まだある物しか出せないけど、ご注文は？

間。

目黒 え、乗っ取ったんですか？

馬場 受け継いだの。マスター回復するまでは。とりあえずね。長い手紙
寄越してさ。馬場くん頼む！ みたいな。

目黒 へええ、

馬場 ご注文は？

上野 そうだな……。炭酸水。

二人 えっ!?

間。

上野 なーんてな。はははっ、いつものだよ、いつもの。

馬場 なんだよ、もう。

目黒 あー、びっくりした。あ、俺も。(いつもの)

上野 (重いものを背負って) …そう簡単じゃないんですよ…簡単じゃ…

馬場、二人にグラスを出す。

上野 じゃ、あいつに(乾杯)。

馬場 やめて。もう、ほんと。カンちゃん巻き込まないで。

上野 掲げただけだろ。(目黒にグラス合わせ) ウイーっす。

目黒 ういーっす。

馬場、看板を(明かりを灯す?) 出す。

店に戻り、カウンターの中へ入る。

馬場 ……

背中にはボトル棚の十字架を背負っている。

馬場とボトル棚だけに灯りが照らされ…

暗転。

〈了〉